



## ソーシャルモチベーション研究会サマーカンファレンス 2019 京都 & 新学術領域「意志動力学」第2回心理系研究交流会のご案内 (最終版)

今年で18回目となるソーシャルモチベーション研究会のサマーカンファレンスを2019年は京都でお引き受けすることになりました。新学術領域「意志動力学の創成と推進」の研究交流会を兼ねており、より広い観点からモチベーションの研究を捉え、議論することができればと願っています。心理学の専門家向けの内容ですが、専門分野や経歴を問わずどなたでも参加できます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

### 1. 日時

2019年8月22日(木) 14:00-17:00, 23日(金) 9:30-11:30

### 2. 会場

キャンパスプラザ京都(京都駅徒歩5分) (次ページ7.参照) 4F 第4講義室

### 3. プログラム

8月22日(木)

14:00(開場13:30)-17:00 研究交流会

発表者(敬称略)

- ・野内類(東北大学)  
高齢期の認知機能を促進させる生活介入と生活介入を継続させる工夫
- ・清水陽香(広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員PD)  
強化学習モデルから捉える防衛的悲観主義
- ・李受珉(広島大学大学院)  
貧困に負けない精神力「shift-persist strategy」の介入効果に関する研究

休憩

- ・佐柳信男(山梨英和大学)  
ケニアとマダガスカルの農家研修プロジェクトにおける参加動機づけの比較:自己決定理論に基づいた質的インタビュー調査
- ・海沼亮(筑波大学大学院)  
中学生における社会的達成目標と学校適応に関する研究

18:00 懇親会

8月23日(金)

9:30(開場9:00)-11:30 シンポジウム(企画:田中あゆみ(同志社大学)・大谷和大(北海道大学))

「学校での介入研究から学ぶ:マインドセット,レジリエンス,創造性への介入」

企画趣旨:私たちの研究は、最終的には、成果を社会に応用し、社会問題の解決に役立てるために行うものであるといえ、社会応用の出発点として、フィールドでの介入研究で結果を出すことは必須と考えられます。そこで本シンポジウムでは、教室で児童・生徒に対する介入研究をされている3名の研究者に話題提供をしていただきます。研究内容そのものから学ぶだけでなく、研究の始め方・終わり方、学校で研究を成立させることの難しさ、その克服法についてなど、介入研究のコストパフォーマンスの実際を学ぶ機会にしたいと思います。

話題提供(敬称略)

- ・竹橋洋毅(奈良女子大学)  
困難への挑戦心を育む:知能観理論に基づく教育実践
- ・石川信一(同志社大学)  
学級で実施する認知行動療法を活用したユニバーサル介入:応用研究と社会実装の狭間で
- ・山口洋介(大阪大学)  
創造性研究の立場から見た介入研究のあり方

指定討論

- ・福住紀明(高知大学)・安藤史高(岐阜聖徳学園大学)

5.お申し込み・お問い合わせ先

事務局：森村千恵（同志社大学）（rs-mc28@mail.doshisha.ac.jp）までメールにてお問い合わせ下さい。

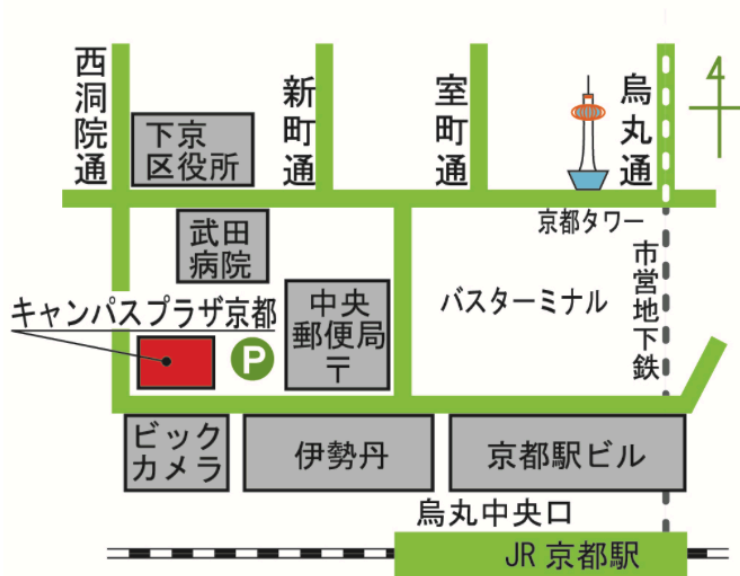
6.世話人

田中あゆみ・田村彩女（同志社大学）

（同志社大学心理学部・ソーシャルモチベーション研究会・新学術領域「意志動力学の創成と推進」による共同開催）

7. キャンパスプラザ京都へのアクセス

JR 京都駅中央口から改札を出て、左に曲がり、伊勢丹の前の通路を進み、郵便局の前の横断歩道を渡り、郵便局の角を曲がりそのまま直進すると左手にキャンパスプラザ京都が見えます。



以上